

令和7年度第2回広陵町国民健康保険運営協議会《議事内容》

日 時 令和8年2月12日（木）

午後2時00分

場 所 広陵町役場 3階 大会議室

1 次第

- ・町長あいさつ
- ・会長あいさつ
- ・議事
 1. 令和8年度 広陵町国民健康保険方針（案）について
 2. 令和8年度 制度改正について
 3. 令和8年 広陵町議会第1回定例会提出議案について
 4. 令和8年度 広陵町国民健康保険特別会計予算（案）について

2 配布資料

- ・会議次第
- ・令和7年度 第2回広陵町国民健康保険運営協議会会議資料
- ・令和7年度 第2回広陵町国民健康保険運営協議会（参考資料）

3 出席者

- ・国民健康保険運営委員 18名中16名出席
- ・理事者、関係部局及び事務局

町長	副町長	けんこう福祉部長	住民環境部長
住民環境部次長	税務課長	けんこう推進課長	
保険年金課長	けんこう推進課員	保険年金課員	

《会議の記録》

議事 1. 令和8年度 広陵町国民健康保険方針（案）について

事務局 広陵町国民健康保険方針（案）について説明

委員 質疑なし

議事 2. 令和8年度 制度改正について

事務局 令和8年度制度改正について説明

- ・子ども子育て支援金制度
- ・軽減判定所得基準額の引き上げ
- ・保険税の課税限度額の引き上げ
- ・高額療養費制度の見直し
- ・その他の制度改正

委員 今でも高い保険税を払っているのに、子ども・子育て支援機制度で保険税が上がる、高額療養費制度の限度額も引き上げ、入院時の食事基準額も引き上げ、軽減判定における所得基準額は引き上げられたが、他はすべて負担が増える。県や町の基金残高を使って、町民の負担を軽減できるようにできないのか。

事務局 子ども・子育て支援制度については、国の少子化対策として受益を有する全世代・全経済主体が子育て世帯を支える新しい分かち合いの仕組みとして創設されたものになる。

奈良県は県内統一保険税で行っているので、広陵町単独で基金を投入することはできないが、奈良県では、令和8年度予算において保険税を上げずに据え置けるよう基金を34億円ほど投入している。今後の取組としては、医療の適正化・抑制に努め、保険税の抑制につなげていく。

委員 払いたくても払えない滞納者は増えているのか。

事務局 滞納者は伸びているのが現状である。払いたくても払えない人もいる。そういった人には、納税相談時に話を聞いて、その中で納税を進めている。

委員 子ども・子育て支援金制度は社会全体で支えていく、将来世代への投資という制度が設けられているが、若い世代も保険税が上がっている。生活が大変な世帯が増えてきている中で増税は大変だと思う。なんとか考えてもらいたい。

事務局 負担が増えているのは、日本国民全体で医療費が上がっているからであり、保険は、全体的の方が負担しあって健康や命を守っている制度と認識している。

保険税を抑制するために国からの地方へ確実に毎年3,400億円の公費投入を確保するよう、また、子ども子育て支援制度について国が責任を持って国民にしっかり理解できるような説明を全国議長会、全国理事会または市町村会で一斉に要望を上げている。

議事 3. 令和8年広陵町議会第1回定例会提出議案について

事務局 令和8年広陵町議会第1回定例会提出議案について説明

委員 質疑なし

議事 4. 令和8年度広陵町国民健康保険特別会計予算（案）について

事務局 令和8年度広陵町国民健康保険特別会計予算（案）について説明

委員 若年者に健康診査を受診してもらうような広報はどのような方法で行っているのか。また、町独自の保険税減免措置が県統一化に伴い廃止された影響について以前確認したときは、それほどなかったと聞いたが、近年の物価高騰が続く中でその後の反響はどうか。

事務局 若年者健診の案内は、毎年3月広報にチラシの挟み込み、町HPに掲載とLINE通知を行っている。また、乳幼児健診に来庁した母親にチラシを手渡ししたり、幼稚園保育園にポスター掲示したりと若年者の目に触れる機会を増やしている。あと、子宮がん検診コール受診勧奨事業の際に、若年者健診の日程を一緒に合わせてお知らせしている。

事務局 保険税の町独自減免措置がなくなった際に質問はあったが、説明をして納得してもらっており、その後、大きな影響、問い合わせはない。

委員 資料10ページの『(3) 国民健康保険事業費納付金について』の表中『医療・後期・介護・子ども分』で、令和7年度と令和8年度の差が子ども支援金分にあたるのか。

事務局 資料の差は、令和7年度と令和8年度の単純の差になる。子ども支援金の納付金としては、1,983万7,417円を県へ納付する。

委員 若年者健診の連続受診者の比率が低いのが課題として挙げているが、若年者が連続して受診する取組として、実施方法や周知啓発など工夫をしてみてもどうか。

事務局 連続受診者を増やす取組は、特定健診と一緒に進めており、県共同化事業のインセンティブ事業にも参加をしている。また、健診を受けに来られた際に、足の健康状態の検診を無料で行い健康に意識をもってもらえるような取組を進めている。

委員 資料では、保険給付費が5年間で1人当たり医療費が30%、10万円ぐらい増えている。診療報酬が毎年マイナス改定で医療機関の収入が減っている。具体的にこういった例

において医療費が増えているのか。

事務局 国保の分しかわからないが、高度の医療を受けている方が増えることによって、医療費が上がっている傾向になっている。

委員 受診間隔や受診回数が増えていない状況だと思う。医療費の増加が、計算上高額療養費の増加だけでないので、増えた原因を掴んでいたら教えてほしい。

事務局 詳しい資料がないが、長期療養者が増えていると思う。

会長 調査して後日にでも委員の方に返答してもらえたら。

委員 子ども子育て支援金によって追加された負担が何の支援に使われるのか、また、納付してもらうことについての周知はするのか。

事務局 子ども子育て支援金制度の周知については、まず広報に載せる予定をしており、チラシを納税通知発送の際に同封したり、新たに国保に加入する方にチラシを配布したりしており、今後もたくさんの方に目にしてもらうよう周知していく。

委員 会議資料と参考資料にある国民健康保険事業費納付金の内訳が違うので比較ができない。

事務局 会議資料と参考資料では、それぞれ考え方が異なるもの。

参考資料は、予算上の区分となっており、会議資料の区分（医療・後期・介護・子ども分、保険者支援分、財政安定化支援事業分）が溶け込んでいる。

委員 他の項目については、会議資料と参考資料で表示の仕方が一緒だが、この項目だけ書きぶりが違う。溶け込んでいるということを備考欄等にも書いてもらえたら助かる。

委員 会議資料の方は、交付税等の財源別に記載があると理解している。参考資料は予算区分なので、内訳を示したらいいのでは。

《委員による採決 承認》

(終了)